

～突撃★ドメーヌ最新情報！！～

◆VCN°26 ドメーヌ・ル・ブリゾー

生産地方：ロワール

新着ワイン4種類♪

VdF パタポン 2015 (白)

ブドウはブランドリエールの畑から。2010年に植樹され5年目の若木のシュナンだけで今回仕込んだ。(2013年のパタポン(白泡)は、ブリゾーと3年目のブランドリエールのブレンド)フレッシュさを活かすために樽を使わずタンクで発酵熟成! ナタリー曰く、2015年は暑い年で樹齢5年の若木にとっては過酷なミレジムだったとのこと。ワインは、成長にブレーキがかかり晩熟だった分、酸とアルコールのバランスがとれたキレのあるドライな味わいに仕上がっている!

VdF キャラクテール 2015 (白)

2015年は、ナタリー曰く、収量はそれほど多くとれなかったが、味わい的には徐々に辛口に仕上がった当たり年とのこと! 暑い年だったにもかかわらず、ブドウにしっかりと酸が残り、前回よりも残糖が少ない分ミネラルの深い味わいをダイレクトに感じる! また、骨太な酸が柱にあるおかげで、アルコール度数が13.5%でも全く重たく感じず、余韻も長い! 個人的な好みとしては、「どストライク」なワインだ!

VdF パタポン 2015 (赤)

パタポンのブレンド内容は固定されておらず、2014年はモルティエの若木とレ・ロングヴィーニュだったのに対し、2015年はモルティエの若木とシャペルがブレンドされ、前年に比べワインがよりスパイシーでストラクチャーがある仕上がりとなっている。ナタリー曰く、シャペルもモルティエも粘土質が強く、通常であれば重心の低いワインに仕上がりがやすいが、気さくなパタポンのワインのイメージに合うよう、ブドウの凝縮を中程度に抑え、また2ヶ月のロングマセレーションと柔らかい抽出を行い、軽快でチャーミングなワインに仕上げている。

VdF ラッキー! 2014 (赤)

日本初リリース! 2014年パタポンにもアッサンブラージュされているレ・ロングヴィーニュの畑のブドウにレ・ピィのブドウをブレンドして造られた新しいキュヴェ。ナタリー曰く、ラッキー! のワインの特徴は、ワインが滑らかかつエレガントで柔らかいこと! モルティエやシャペルよりもレ・ロングヴィーニュの畑は粘土がサラサラなため、出来上がるワインはテクスチャーが滑らかで、さらに、そこにレ・ピィという石灰質の古樹のピノニスアッサンブラージュされることによってフィネスやエレガントさが加わるのだそうだ。ワインはブルゴーニュのピノノワールを彷彿させるような艶やかな果実味がありとてもエレガント! 今がまさに飲み頃だ!

ミレジム情報 当主ナタリー・ゴビシェールのコメント

2014年は、暖冬からのスタートで霜もほとんど下りずにそのまま春を迎えた。春はまるで夏のような良い天候に恵まれ、ブドウの成長ペースも1ヶ月ほど速かった。だが、5月中旬から8月まで天候が崩れ、雨が多く気温の上昇しない日が続いた。畑では病気の不安があったが、適切なボルドー液散布で何とか乗り切った。9月に入って再び天候が回復し、ブドウは一気に完熟に向かったが、9月下旬「スズキ」というショウジョウバエが猛威を振るい、収穫直前にたった3日間でブドウの収量は60%ほど減収となった…。

2015年は質にも量にも恵まれた当たり年! 春は温暖で適度な雨にも恵まれ、ブドウの成長も1週間ほどペースの速い幸先の良いスタートだった。開花も順調で、病気もなく豊作が期待された。5月終わりまでブドウ

の成長に勢いがあったが、6月からは夏日となり雨も降らず、乾燥により成長に少しブレーキがかかり始めた。日差しの強く乾燥した気候はそのまま8月の中旬まで続き、その間も全く雨が降らなかったため、ブドウの葉は裏返り、房も小さくコンパクトなまま明らかに水不足の様相を呈してきた。だが、幸いにも8月15日、16日と2日間に渡り計50mmのまとまった雨が降ってくれたおかげでブドウは息を吹き返し、そのまま果汁をしっかりと蓄え完熟したきれいなブドウを収穫することができた！

「ヨシ」のつ・ぶ・や・き



写真① モルティエの畑

これはモルティエの畑の写真（写真①）。2017年は、4月終わりにロワール全域に渡り遅霜が降りたが、8割から9割近くやられたブリゾーに比べて、モルティエは2割程度と、比較的軽い被害で済んでいる。ナタリーの予想では、今年はこのまま順調に行くと平均収量が30 hL/ha 前後。決して多くはないが、それでも前年の倍の収量が期待できそうだとのこと！

土壌づくりの一環として、ナタリーは、今年から全ての畑に大麦を植えている！これはモルティエの若木の畑だが、トラクターで土起こしする代わりに、写真のように畝の間に大麦を植え、大麦の根

に土を耕してもらおうといういわば不耕起農法の発想を取り入れている（写真②）。ちなみに、彼女が植物に大麦を選択したのは、窒素が多量に含まれているからだとのこと。この後、稲穂を Rouleau Faca（ルーロー・ファッカ）というドラム回転式の耕作機で押し倒していき、大麦の絨毯をつくる。こうすることで、大麦の上の方は枝がへし折られてこれ以上伸びることはなく、やがて少しずつ朽ち果て堆肥（窒素）となっていく。一方、根の方はまだ生きていて、根が張ることで細かく土の表面を耕している状態が続く。彼女曰く、大麦とルー



写真② 畝間に植えられた大麦

ロー・ファッカを組み合わせることで、不耕起のまま肥料と土起こしの作業が同時にしかもナチュラルに行えるメリットがあるとのこと！その他、大麦を押し倒し絨毯状にすることで、他の雑草が生えづらい、雨が降ってもぬかるむことがなく作業がしやすい、逆に日照りの時は土壤の乾燥を防いでくれるなど色々なメリットがあるそうだ。

ナタリーが南に移り住んで以来、「ロワールの畑はきちんと管理できているのかどうか？」という心配があったが、今回一通り畑を見てまわり、状態を見て安心できた♪

（2017.6.27 のドメーヌ突撃訪問より）